

ソーラーパネルを用いた休耕田の湿地再生

森 聡子・服部泰樹（里山レンジャー）

はじめに

皆さんは兵庫県立有馬富士公園をご存知でしょうか？県下一広い公園として開園した公園です。公園での活動を通して、この公園は都市公園であるにもかかわらず、兵庫県レッドブックに記載されている生き物が多く生息していることに驚かされました。その生き物達を保全していきたいという思いがあった私達は、公園のとある状況に気が付きました。広大な公園がゆえに、整備の手が行き届かず、放置された場所がいかに多いことか！そこで、公園の許可を得て、その一部の休耕田や里山を用いて生き物のためにできることを始めようということになりました。

実施内容

実施場所は、開園以来放置されていた場所なので、ネザサやススキ、セイタカアワダチソウなどうっそうとしている場所でした。まず、その場所に生息している生き物の調査を行い、それを基に、どのようにすればよいかを検討のうえ、休耕田及び里山の再生を行うことになりました。雑草類を取り除くことから始め、次に、工作機械を用いての湿地作りを行いました。しかし、この時点で問題が生じました。この場所には、常に流れ込んでくる水源がないのです。ただ、実施場所に接した場所には、ため池から流れる水の側溝があり、水が流れていました。その水を休耕田にあげることができないかと考えましたが、もちろん電源がないのでモーターを使っただけの給水は無理です。そこで、ソーラーパネルを使う方法を採用しました。

結果

ソーラーパネルを使用することにより、電源のない場所でも一定の水量を確保することができるようになりました。その結果をふまえて、ひとまわりの大きなソーラーパネルを購入。それを使い、水源から約3メートル以上の高さの場所に水を上げることができました。また、多少曇っていても水を供給することがわかりました。以上により、電源のない場所でのソーラーパネルの活用は有効であると思われます。

